



10センチメートル以上あるオタマジャクシは、何ガエルなの

見られる時期で、種類をしぼる

オタマジャクシだけを見て、カエルの種類を見分けるのは、専門家でないと難しいでしょう。でも、カエルは、種類によって、卵を産む時期や産む場所がちがいます。オタマジャクシの見られる時期で、およその種類をあてることはできます。関東地方を例に説明しますので、北の地方はこれよりおそい時期、南では、もっと早い時期となります。

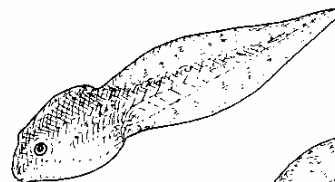
3～4月ごろ、平地の水辺でオタマジャクシが見られるのは、ヤマアカガエルか、ヒキガエルのことが多いでしょう。5～6月ごろ見られるのは、トノサマガエルやアマガエルのオタマジャクシです。これらのうち、体の大きいヒキガエルのオタマジャクシでも、足が生え始める時期で、5センチメートルぐらいにしかありません。

ウシガエルのオタマジャクシは、大きい

6～8月ごろ見られる大きいオタマジャクシは、ウシガエル（食用ガエル）です。ウシガエルのオタマジャクシは、体長が14センチメートル以上になるものも見られます。

オタマジャクシは、たいてい、おとなになったカエルより小さいものです。カエルのおよその体長を比べると、最大がウシガエルの15センチメートル、次がヒキガエルの10センチメートルなので、巨大なオタマジャクシは、ウシガエルでしょう。

（監修・今泉 忠明）



トノサマガエル



アマガエル



カジカガエル

オタマジャクシの体つきのちがいを

